

私立大学研究ブランディング事業 令和元年度の進捗状況

学校法人番号	401002	学校法人名	久留米大学		
大学名	久留米大学				
事業名	すこやかな「次代」と「人」を創る研究拠点大学へ～先端がん治療・研究による挑戦～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	6,011人
参画組織	先端癌治療研究センター、大学院医学研究科、医学部、がんワクチンセンター、大学病院、バイオ統計センター、臨床研究センター、人間健康学部、大学院心理学研究科				
事業概要	<p>がんペプチドワクチン等のテラーメイドがん治療の開発普及を推進するとともに、新たな強みとなる潜在的シーズを発掘し、がんの新規治療法や予防法の開発へとつなげるモデルを構築する。</p> <p>同時に、組織の教育研究力強化とPR・コミュニケーション活動の強化を進め、「地域に根ざした先端研究」「地域に根ざした医療」を実践し、地域社会経済の発展・深化及び地方創生に全学を挙げて寄与するものである。</p>				
①事業目的	<p>先端癌治療研究センターを中心に、本学の強みであるテラーメイドながん治療の確立に向け、テラーメイドがんペプチドワクチン等の実用化推進と改良・次世代化を進めるとともに、がんの新規診断法や治療法につながるような本学内の研究シーズの発掘と応用展開を進め、学内の資源・人材を戦略的に活用しながら、様々な課題解決に取り組む。</p> <p>ブランディング戦略をととして、「すこやかな「次代」と「人」を創る大学」というブランドの形成を図る。</p>				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	<p><研究の目標></p> <p>プロジェクト1:①テラーメイドワクチンの適応拡大のための臨床データの蓄積 ②次世代がんワクチンの標的分子の探索方法プロトタイプ動物モデルでの確立</p> <p>プロジェクト2:①「New FP」療法の更なる普及、「New FP」療法を実施できる若手医師を少なくとも3名養成する。②治療抵抗性の解明:「遺残肝がん細胞」と「周辺組織」との相互作用解明の解明:「遺残肝がん細胞」と「周辺組織」との相互作用解明</p> <p>プロジェクト3:新たな看板となるシーズを発掘・育成するシステムの確立</p> <p>プロジェクト4:文医融合分野創造部会による大学公開講座の開講、チームプロジェクト研究の開始</p> <p>プロジェクト5(2019年度新設):次代を担う若手研究者を支援・育成する。</p> <p><ブランディング戦略の目標></p> <p>本学のブランドイメージの学内における周知及び学外への発信</p> <p><研究の実実施計画></p> <p>プロジェクト1:①テラーメイドがんペプチドワクチンの臨床研究の成果を総括し英文査読誌に発表する。②効率的にネオアンチゲンを同定する方法を動物モデルで確立する。また、次世代ワクチンの効率的な免疫誘導の基礎的研究を行う。</p> <p>プロジェクト2:①「New FP」研究会を定着させ、遠方の他施設からの若手医師を積極的に受け入れ、「New FP」療法を習得させるとともに、「New FP」療法に熟練したコメディカル(看護師、ソーシャルワーカー等)養成のための「講習会(実技を含む)」を発足させる。②治療抵抗性「遺残肝がん細胞」と「がんニッチ」の相互依存の関係を明らかにし、「がん幹細胞」の“アキレス腱”を同定する。成果は学会及び英文査読誌に発表する。</p> <p>プロジェクト3:新規に「シーズ探索対象研究」1課題を選定する。平成30年度採択課題については、前年度成果に応じて研究費を増額する。進捗状況の評価を行うとともに、実用化促進のためのシステム改良を行う。</p> <p>プロジェクト4:①大学 公開講座で「がん患者の心のケア」を開講する。(10月～12月実施)</p> <p>プロジェクト5:若手研究者の研究を支援。単年度支援とし、3件以内採択。</p> <p><ブランディング戦略の実実施計画></p> <p>②研究成果の公表(プレスリリース、学会発表、大学のホームページ、市民公開講座等)を年1回以上行い、国内外に広く発信する。③がん教育・啓発活動として市民公開講座(年1回以上)、サイエンス・カフェ(年10回程度)等を開催する。⑤患者・患者家族への先端がん医療等に関する情報提供・相談活動(年5回以上)を実施する。⑥がん教育・啓発活動としての高校生向け出前授業(年10回程度)等を実施する。⑦本事業の独自色を各種媒体(入試案内(年1回発行)、大学広報誌(年4回発行)、研究ブランディング事業ホームページ、高校訪問時の資料等)でアピールする。⑧研究者・研究室をリレー方式で大学のホームページ等において紹介する。⑨新聞・テレビ等を活用した情報発信を行う。⑩学内シンポジウムを開催(年1回)する。⑬ブランディングムービー制作 以上に加え、「ひらめき☆ときめきサイエンス」の実施</p>				

<p>③ 令和元年度の事業成果</p>	<p>〈研究活動の成果〉</p> <p>プロジェクト1:① 臨床研究の成果を総括:がんワクチン療法の臨床研究の総括を英文査読誌に発表した。② マウスがん細胞株から次世代シーケンサーによる遺伝子変異解析を行い、免疫誘導可能なネオ抗原を12個同定した。更に、これらを認識するT細胞受容体遺伝子解析を実施した。また、腫瘍微小環境に影響する因子の欠損株をゲノム編集を用いて作製した。</p> <p>プロジェクト2:① 「New FP研究会2019」を6月8日(土)に開催。全国17施設から総数約50名による研究会を行い、当初目標を大きく上回る若手医師の養成を達成した。また、「New FP」療法実施施設による他施設共同研究を立ち上げ(倫理委員会承認済)、663例の「New FP」療法データを集積し、解析を行った。また、「New FP」療法新規導入を希望する1施設に対し技術移転を行った。② がん幹細胞マーカーCD44v9の染色体を中心とした解析を終えた。また、成果を英文査読誌に発表した(Cancer Sci)。</p> <p>プロジェクト3:学内公募を行い、6課題の応募があった。1件を選定し研究が開始された(研究支援期間は3年間)。また、ベンチャーキャピタリストによる助言の機会を設けた。</p> <p>プロジェクト4: ①大学 公開講座「がん患者の心のケア」を10月～11月に実施した全6回。」</p> <p>② 文医融合分野の研究支援として、学内公募を行い、2課題に対し研究支援が開始された(研究支援期間は3年間)。11月30日にシンポジウム「医療的ケアの必要な子どもが子どもらしく生きるために」を開催し、学内外から約150名の参加者があった。</p> <p>プロジェクト5:学内公募を行い、3課題に対し研究支援が開始された(支援期間は1年間)。</p> <p>〈ブランディング活動の成果〉</p> <p>② 研究成果の公表:リサーチレポート2018を刊行し、学外機関に発送した(9月)。</p> <p>③ がん教育・啓発活動:(ア)医療フォーラム2019「2人に1人が「がん」になる時代に」(7月6日、福岡市)に麻木久仁子さんをゲストに迎え朝日新聞と共同開催するとともに、新聞紙面にも掲載し広範な広報活動を展開した。</p> <p>(イ)先端癌治療研究センター市民公開講座「肝・胆・膵の“がん”をもっと知ろう!」(10月5日、福岡市)を開催した。(ウ)腫瘍センター主催の市民公開講座「がんに負けない自分になろう～笑って、学んで、健康増進～」(11月17日、久留米市)を開催した。(エ)市民対象スモールセミナー「カフェで学ぼうがんのこと」を福岡市で10回開催した。</p> <p>⑤ 患者・患者家族への先端がん医療等に関する情報提供・相談活動:(ア)腫瘍センター主催の「がん教室」を大学病院内で12回開催した。(イ)筑後地区がん診療拠点病院「がんサロンちっこ」(院外、久留米市内)において、がん相談支援活動を実施した。</p> <p>⑥ がん教育・啓発活動:高校生向けにがん教育出前授業(10月から12月)を県内公立高校5校、私立1校及び高等専門学校1校で実施した。</p> <p>⑦ 本事業のアピール:(ア)2020年度大学・入試案内、大学広報誌に掲載した。(イ)研究ブランディング事業ホームページを充実させた。本学の研究活動をまとめたページを作成した。(ウ)高校訪問時に本事業活動資料を配布した。</p> <p>⑧ 研究者・研究室をリレー方式で本事業ホームページにおいて紹介した。</p> <p>⑨ 新聞・テレビ等を活用した情報発信:(ア)読売新聞「大学の實力」(6月)、朝日新聞「大学力」(7月)で研究ブランディング事業に関する記事を掲載した。(イ)医療フォーラム2019「2人に1人が「がん」になる時代に」(7月6日開催)を実施し、朝日新聞に掲載した。(ウ)テレビ局や新聞社の関係者を本学福岡サテライトに集め、本学の情報を発信する取組を定期的実施した。</p> <p>⑩ 学内シンポジウムの開催:朝日新聞と共催の医療フォーラム2019では、教員による医療講演のみならず、文系・医系の学生(5学科9名)を登壇、ゲストと共演させ、学生・教職員参加型のシンポジウム形式のイベントとして学内外に広く発信した。</p> <p>⑬ ブランディングムービー制作:大学のOB・OGを紹介するブランディングムービーを制作し、YouTube上にアップし、本学ホームページにおいても紹介した。</p> <p>その他:「My Innovation」プロジェクト:誰もが自分の夢や社会の理想について自由に発信することによりブランディング事業に参画でき、意識を共有できるサイトで、学生のメッセージを紹介した。また、「ひらめき☆ときめきサイエンス」は「感染症の脅威から身を守ろう～新型インフルエンザから生物テロ対策まで～」(8月)を開催した。</p>
<p>④ 令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>研究活動については、全てのプロジェクトが計画どおりに実施され、平成29年度から計画した文医融合による取組を具現化することができた。また、ブランディング活動については、昨年度に実施した「がん教育・啓発活動として高校教員に向けた教育活動」は都合がつかず実施できなかったが、その他では概ね予定していた項目を実施することができ、特に、学部・学科を越え学生と共に、一から企画した「医療フォーラム2019」は、これまでにない達成感とアンケートの結果からも成功裏に終えたと自負するところであり、社会へ人(学生)の成長(人材育成)をアピールすることに繋げることができた。しかしながら、学内におけるサンプリングによる調査については、ブランディング事業の取組や情報発信についての認知度は46.5%と過半数には届かず、学外への発信と併せ、インナーブランディングの強化について、更なる取組が必要である。</p> <p>(外部評価)</p> <p>研究活動及びブランディング活動に関する外部評価委員会をそれぞれ開催した。</p> <p>研究活動については、各研究ともに完成度が高く、科学性・独自性も高く、優れた研究と考えられる。実施計画に掲げた目標を概ね達成しているため良好であると考え。一般市民を対象とした公開講座や高校における「がん教育出前授業」等については、久留米大学における研究成果や取組を広くPRするものであるとともに、県民や市民にとっても貴重な話を聴くことができる機会であるため、非常に有用な事業であるとの評価であった。</p> <p>また、ブランディング活動については、がん教育や啓発活動、医療従事者向け教育普及活動、研究者紹介等の活動に関する高い評価を受けたが、研究活動については、一般的に伝わりづらいものであることから、その発信方法については、SNSや動画を活用したより分かりやすい発信方法とすること等が課題として指摘された。</p>
<p>⑤ 令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>〈研究活動〉</p> <p>研究費、人件費(特定教育職員・事務職員)、外部評価委員会に関する諸経費及び共同利用機器運営費</p> <p>〈広報・普及活動〉</p> <p>市民公開講座・セミナー等の開催諸経費、ホームページ作成費・維持費</p>